

第1学年3組 道徳科学習指導案

学校名： 飯塚市立飯塚第一中学校

授業者： 島居 光希

1. 題材名「裏庭での出来事」 A 自主、自律、自由と責任

2. 授業のねらい

本資料は、2枚目のガラスを割ってしまった健二、2枚目のガラスを割ったことをごまかした大輔、2枚目のガラスも割ったことにされた雄一の中学生3人の三者三様の判断と、その行動を巡る資料である。ここでは、真実を伝えずに友人関係を守ることと、先生に「自分がガラスを割ったこと」を伝えようとする誠実な考え方との間で悩む主人公健二の心情に着目させることで、誠実な行動の難しさについて考えを深めさせたい。また、学習後の生活において、自分の行為の結果に責任をもち、自らを律し、誠実に生きようとする意欲を持たせることをねらいとする。

【本時の主眼】

健二と大輔、雄一の言動や立場について話し合う活動を通して、自身の行為について責任を持ち誠実に受け止めようとする意欲を持つことができる。

3. 単元計画

時間	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい目安
前時	アンケートをとる。 資料を配付し、内容を確認しておく。	資料を読ませ、状況を把握することができる。
本時	「責任・誠実」について、協調学習の手法を用いて考えを深める。	学級の仲間と協調し、対話をする中で多様な考えをお互いに引き出しながら「責任・誠実」について考えを深めることができる。
この後	学校生活や部活動の中で誠実な態度について考え、これまでの自分を見つめ直す。	自身の行為の結果に向き合い、責任を持った行動を実践することができる。

4. 上記の一連の学習で目指すゴール

アンケートによると、本学級の全生徒は、「これまでに自分の失敗をごまかしたり人のせいにしてきた」経験がある。その一方で、10名の生徒は、自分の失敗を正直に申し出ることができるかと答えた。その時の自分の姿と、正直に失敗を申し出た雄一や失敗を人になすりつけた形になってしまった健二の姿を重ね合わせさせる。そこで、「正直に言うことで、『損をした』ということになるのでしょうか」という課題に対して、健二と雄一、大輔の3人の関係や行動を元に、自分の答えを出すことで、自身の行為に対する責任や誠実な態度について考えさせたい。そして、今後の生活において、自身の判断によって行った行為の結果に誠実に向き合い、責任を持った行動を実践する意欲を持たせたい。

5. 生徒の既有知識、学習の予想

中学生のこの時期は、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということ深く考えないまま、無責任な言動をとってしまうことが多い。そのため、本資料中において2枚目のガラスを割ったことを言わなかった健二の立場や行動に共感する生徒が多いことが予想される。そこで、資料の話の後に、「自分自身ならどういう行動をとるか」と、登場人物に気持ちを重ね合わせて、根拠つけて考えることで、生活の中での自身の行為に対する責任について考えられるようになるであろう。

6. 期待する解の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるとき、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）

<p>○自分の行動の結果には責任を持たなければいけないので、正直に言う必要がある。</p> <p>○損をしてでも、正直になることが大切である。</p> <p>○自分が良いと思っても他の二人はそうではないこともあるので、損をしてでも自身の行動には責任を持って正直に言うべきだ。</p> <p>〈評価規準〉</p> <p>○授業を通して、自身の行為には結果に関わらず責任が伴うため、何が正しく何が誤りであるのかを自ら判断して、自分の行為が他者にどのような影響を与えるのかを考えることができる。</p> <p>○授業を通して、自身の行為の結果がどのような影響を及ぼすのかを他者との関わりを含めて考え、誠実であるためにはどのような行動をとればよいのか考えることができる。</p>

7. 学習のデザイン

時間	学習活動	留意点
前時 10分	<p>〈事前指導〉</p> <p>○事前に配布された資料をもとに、内容を把握する。</p>	<p>○資料を読ませた後、1枚目のガラスと2枚目のガラスに関わる行動をまとめた表を提示することで登場人物の立場や状況を把握させる。</p>
導入 5分	<p>1 失敗した時にどのような行動をとってきたのか考える。</p> <p>2 本時の課題を知る。</p>	<p>○「正直者は救われる」、「正直者は損をする」という言葉があるが、そのような経験があるか問いかけ、課題への方向付けをする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><課題> 正直に言うことで叱られたら、「損をした」ということになるのか？</p> </div>		
展開 3分 10分	<p>3 資料の内容を確認する。</p> <p>○登場人物 ○状況</p> <p>4 エキスパート活動を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3人の立場・行動について話し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・エキスパートA【健二の立場】 2枚目のガラスを割ったと本当のことを言うとうどうなるのか。言わないとうどうなるのか。 ・エキスパートB【大輔の立場】 本当のことを言うとうどうなるのか。言わないとうどうなるのか。 ・エキスパートC【雄一の立場】 自分が2枚目のガラスを割っていないと本当のことを言うとうどうなるのか。言わないとうどうなるのか。 	<p>○登場人物の立場やその行動について、人物関係表を用いて3人の関係を確認させる。</p> <p>○エキスパートAでは、健二がガラスを割ったことを正直に言いたいが、大輔との関係や自分の立場が悪くなることを恐れている葛藤について、資料中の健二の行動から気づかせる。</p> <p>○エキスパートBでは、大輔はガラスを割ってはいないが健二を遊びに誘いガラスを割る原因を作ったことについて人物関係表を用いて確認させる。</p> <p>○エキスパートCでは、人物関係表をもとに雄一は1枚目のガラスを割った自分の行動を見直し責任を感じているが、割っていない2枚目の責任を押しつけられたときの感情をもとに話し合いをさせる。</p>

15分	5 ジグソー活動を行う。 今回のことについて、もう一度3人で話し、それぞれの思いを伝え合ってください。 ・さらに、 このあと、どうしますか? という発問について考える。	○エキスパートグループのA→B→Cの順で話し合わせる。 ○2枚目のガラスを割った後の場面について、誰が何をするのか、その理由も含めて考えさせ、ホワイトボードに書かせる。
12分	6 クロストーク活動を行う。 〈予想される生徒の考え〉 【本当のことを言う】 ・二人に悪いので、本当のことを話す。(健二) ・健二には悪いが2枚とも自分が割ったことになるのが嫌なので本当のことを話す。(雄一) ・雄一のせいになっているが、遊びに誘った自分が悪いので本当のことを話す。(大輔) 【本当のことを言わない】 ・自分は叱られないので言わない。(健二) ・2枚目も自分が割ったことになっているが1枚も2枚も変わらないから言わない。(雄一) ・ガラスを割っていないので言わない。(大輔)	○ジグソー活動で考えた行動をとることで他の二人に与える影響が、良い影響なのか悪い影響なのかを考えさせる。 ○「本当のことを言わない」と答えた場合、「その選択をすることで他の2人にどのような影響が及ぶのか」と問い返し、誰かが嫌な思いをすることをとらえさせる。
終末5分	7 個に戻り、本時の課題について再度考えをまとめる。	○本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめ、そう考えた根拠を記述させる。

8. 各エキスパート・ジグソー〈対象の生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパート・ジグソーで押さえたいポイント、そのために扱う内容・活動〉

○エキスパートA (健二) : ガラスを割ったことを正直に言いたいが、大輔との関係や自分の立場が悪くなることを恐れて、言おうか言うまいか逡巡している健二の心情を読み取らせる。
○エキスパートB (大輔) : ガラスを割ってはいないが、正直に言うと、自分が健二を遊びに誘いガラスを割る原因を作ったことや嘘をついたことが明らかになり、自分の立場が悪くなってしまうという大輔の心情を読み取らせる。
○エキスパートC (雄一) : 1枚目のガラスを割ったという自分の行動を見直し責任を感じている上、2枚目も割ったことにされたという不本意な気持ちをもっていることをとらえさせる。

9. ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

○日常生活の中でどのような小さな行為においても、失敗や成功に関わらず結果を誠実に受け止め、責任のある行動をしていく。
○自身の行為が及ぼす結果について深く考えていく。

10. グループの人数や組み方

$3 \times 9 = 27$ 人、 $4 \times 2 = 8$ 人
